

高等学 校

平成24年度

教育研究員研究報告書

芸術（音楽）

東京都教育委員会

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

<p>高等学校芸術 (音楽) 部会 研究主題</p>	<p>生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるための授業の在り方 ～思考力・判断力・表現力を伸ばさせる評価の工夫～</p>
------------------------------------	--

I 研究主題設定の理由

1 新学習指導要領の実践に向けて

新学習指導要領では、思考力・判断力・表現力等の育成が重要な点として示されている。また、平成 22 年度の東京都教育研究員高等学校芸術（音楽）部会報告書では、芸術（音楽）科（以下「音楽科」と記述）における「確かな学力」を次のように定義した。

- (1) 音楽を形づくっている要素を正しく理解し、歌詞の内容や楽曲の背景を感じ取り、イメージをもち、表現を工夫して演奏・創造する力
- (2) 楽曲や演奏について、それぞれの特徴を理解して鑑賞する力

これを受け、本部会では思考力・判断力・表現力の育成が「確かな学力」を身に付ける過程とどのように結び付いているかが重要であると考え、知覚・感受した内容を基に考える力や音楽的な特徴を判断する力、思考・判断した内容を音楽表現に活用する力のそれぞれを、評価方法の改善を通して育成することについて考察することを研究主題として設定した。

2 音楽科における「思考力・判断力・表現力」

音楽科における思考力・判断力・表現力のそれぞれを本部会では以下のように定義した。

(1) 思考力

音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を正しく理解し、それらを基に知覚・感受した内容を考えることを音楽科における思考力と定義した。音楽的な思考力を育む活動の例としては、曲想を、歌詞の言葉の意味やその語感、歌詞が表す情景や心情などに関わらせて感じ取ったり、その楽曲がつくられた背景や歌い継いできた人々の思いなどに関わらせて感じ取ったりして、楽曲にふさわしい表現を工夫する活動などがある。

その際に、歌詞の意味や楽曲の背景を知識として理解することにとどまるのではなく、適切な教材を準備して、音楽が醸し出す雰囲気と歌詞の内容や楽曲の背景との関わりを感じ取ることができるようにすることが大切である。

(2) 判断力

楽曲から知覚・感受したものについて音楽的な特徴を捉え、自分にとっての価値を判断することを音楽科における判断力と定義した。例えば、歌唱、器楽、創作において、音のつながり方を考え、どのようなつながり方がよいのかを判断し、鑑賞において、音の組合せの特徴を捉え、楽曲の背景に関わらせて考え、自分なりに価値判断するなどの活動などがある。

その際、音楽によって喚起されたイメージや感情について、根拠をもって述べることができるように、音楽を形づくっている要素を知覚することと、それらの働きを感受することとを関連付ける学習が重要となってくる。

(3) 表現力

音楽によって喚起されたイメージや感情など思考・判断した内容を、自分なりの言葉で言

い表したり書き表したり、音楽として表現する活動に活用することを音楽科における表現力と定義した。例えば、音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現したり、音楽表現を通して他者に伝える活動などがある。根拠をもって批評することは創造的な行為であり、それは、漠然と感想を述べたり単なる感想文を書いたりすることとは異なる活動である。批評する活動を取り入れることは、結果として、音楽のよさや美しさなどの味わいを深め、鑑賞の学習が充実することになる。

3 現状と課題

鑑賞の授業においては、雰囲気のみに着目した感想や、あいまいなイメージによる感想などが多く、さらに表現活動においては、強弱や発想記号など、楽譜の指示を意識することはできるが、楽譜の指示の理由や根拠についての理解が不十分である生徒が多い。つまり、楽曲から知覚・感受した内容について、音楽を形づくっている要素を用いて表現する力が十分に身に付いていない現状がある。

そこで本部会では、音楽を形づくっている要素を理解し、表現活動に反映する力を向上させる指導と、音楽表現の創意工夫や鑑賞の能力を伸長させる評価の工夫との2点を課題とし、課題解決のための方策について検討を重ねた。

II 研究の視点

思考力・判断力・表現力を育成するには、言語活動を活用することが有効であると考えた。

音楽の授業では、音楽を形づくっている要素を理解し、感じ取った音楽のよさや美しさを表現したり、他者との意見交換をしたりする学習活動を通して、音楽に対する自分なりの価値を見出し、音楽文化に対する理解を深める指導が求められている。

1 音楽を形づくっている要素を理解し、表現活動に反映する力を向上させる工夫

授業のねらいの達成に適した教材を選択し、音楽を形づくっている要素に気付かせ、活用する学習を重ねることで、音楽を形づくっている要素を理解し、表現活動に反映する力を向上させていく。

実践事例1の日本の伝統音楽「ねぶた(ねぷた)」は、躍動感のあるリズムや楽器の音色に特徴があるため、生徒にその面白さを気付かせやすい。リズムが音楽や身体表現の全体的な雰囲気をつくる上で大きな役割を果たしていることに気付かせ、理解させた上で、次の授業（言葉とリズムの関係を考え創作する）において既習事項として活用させ、さらに理解を深めさせることができる。

実践事例2のドヴォルザーク作曲「交響曲第9番『新世界』より」は、芸術的価値が確立しており、メロディーに親しみを感じやすく、強弱やテンポの変化等を活用して、表現の工夫を考える力を身に付けさせることができる。第3学年の授業であり、今までに学習してきた強弱やテンポの変化などの音楽を形づくっている要素を既習事項として活用させ、理解を深めさせるとともに、音楽表現の創意工夫につなげていく。

実践事例3のクルティス作曲「帰れソレントへ」は、歌詞の内容に応じた明確な調性の変化や、劇的な音楽表現の工夫がある。それらが、曲想を支配することを生徒に気付かせることができる。ここで学習した歌詞の内容と音楽表現の工夫を既習事項として3学期の合唱につなげていく。

2 音楽表現の創意工夫や鑑賞の能力を伸長させる評価の工夫

歌唱や器楽の活動の際、ピアノを習っている生徒や、音楽系の部活動に入っている生徒は、器楽演奏や読譜などに関する高い技能をもっている。また、鑑賞の活動の際、文章が得意な生徒は巧みな感想文を書き上げることができる。しかし、学校教育における音楽では、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、授業において確実にその力が付いたかを評価することが重要である。

その実現のために本部会ではワークシートを活用し、生徒に身に付けさせたい事項を明確にした。それを基に繰り返し評価することで、表現や鑑賞の活動を通して生徒の能力の定着を図った。例えば、実践事例1では、日本の伝統芸能を鑑賞する過程で、ワークシートを活用したところ、特徴あるバチによって響きが異なることに気付いた生徒を評価して全体に共有させることができ、楽器それ自体だけでなく、付属物や音の出し方によっても楽曲の雰囲気が変わるという捉え方を身に付けさせることができた。

Ⅲ 研究の仮説

高等学校学習指導要領音楽では、全ての音楽活動を支える基盤として、「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受」することが示されている。ここから本部会では、音楽科における思考力・判断力・表現力を育むためには、音楽を形づくっている要素についての理解を深め、それぞれの要素を活用する力を伸張する必要があると考えた。すなわち、音楽科における思考力・判断力・表現力の育成とは、ある楽曲について自らが感じた思いや情動を、音楽を形づくっている要素を根拠として、「なぜそう感じたのか」を考えることで、音楽的な特徴や自分にとっての価値を判断し、音楽を形づくっている要素を音楽表現や言語活動に活用する力を育成することである。

音楽の様々な活動を明確な根拠をもって行うことで、既知の楽曲についてはその価値を再認識し、新しい楽曲に関しては知識と経験から自分にとっての価値を判断することができる。このことは音楽への興味・関心を高め、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てることにつながっていくと考える。

平成22年度の高等学校芸術（音楽）部会では、「音楽を形づくっている要素の理解を深めさせるための指導法の工夫」が報告されている。本部会ではその内容を踏まえた上で、現状と課題を検討した。特に問題として挙げられたのは、鑑賞における評価の方法である。鑑賞の授業においては、生徒の音楽経験や語彙の差によって、感じた内容を表現する力は大きく異なってくる。これらの生徒に適切な評価をするために、思考の過程を明確にすることができないだろうかという観点に基づいて協議を行った。そこで、「音楽表現の創意工夫や鑑賞の能力において、思考の過程を重視した評価の工夫をすることにより、思考力・判断力・表現力を伸長させることができる。」という仮説を立て、その具体的方策を検証授業において確かめることとした。

Ⅳ 研究の方法

1 ワークシートを活用し、思考の過程を明確にさせる

今回の研究では、ワークシートを活用し、主に鑑賞を通して「感じたこと、思ったこと」とともに「なぜそう感じたか、思ったか」を音楽を形づくっている要素を用いて記述させる。楽

曲から感じ取った音楽のよさや美しさを根拠をもって説明することで、自らの思考の過程を明確にすることができる。

2 繰り返し評価を行うことで、思考力・判断力・表現力を定着させる

授業者が音楽から感じ取ったよさや美しさと音楽を形づくっている要素との関連を生徒に気付かせ、適切な評価を繰り返すことで、思考力・判断力・表現力を定着させることができる。

3 段階を追って学習活動を行い、学力を定着させる

年間授業計画を基に指導内容を工夫することで、1単位時間、単元内、単元間で既習事項を活用させる。さらに、教員が適切な時期に適切な評価をすることによって、生徒の既習事項の活用を支援し、知識、理解を深めさせるとともに、その繰り返しによって学力を定着させる。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **思考力・判断力・表現力を育成するための評価の工夫**

教科等における「思考力・判断力・表現力」の定義

思考力 知覚・感受した内容について音楽を形づくっている要素を基に考える力

判断力 音楽的な特徴や自分にとっての価値を判断する力

表現力 思考・判断した内容を音楽表現や言語活動に活用する力

各教科における「思考力・判断力・表現力」の育成の現状と課題

現状

- ・楽曲から知覚・感受した内容について、音楽を形づくっている要素を用いて表現する力が十分とは言えない。

課題

- ・音楽を形づくっている要素を理解し、表現活動に反映する力を向上させる指導が必要である。
- ・音楽表現の創意工夫や鑑賞の能力を伸長させる評価の工夫が必要である。

(芸術・音楽)部会主題

生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるための授業の在り方
～思考力・判断力・表現力を伸長させる評価の工夫～

仮説

音楽表現の創意工夫や鑑賞の能力において、過程を重視した評価の工夫をすることにより、思考力・判断力・表現力を伸長させることができる。

具体的方策

- ・音楽を形づくっている要素を用いて、「生徒が感じたことや思ったこと」を根拠をもって記述できるようなワークシートを工夫し、思考力・判断力・表現力を伸長させる。
- ・1単位時間、単元内、単元間など評価の時期を工夫することで、思考力・判断力・表現力を定着させる。

検証方法

授業で使用したワークシートの音楽を形づくっている要素の活用の部分の記述から、生徒の思考・判断や表現がどのように変容したかを評価・検証する。

2 実践事例 1

科目名	音楽 I	学年	1 学年
-----	------	----	------

(1) 題材名 「我が国や郷土の伝統音楽の特徴を感じ取って鑑賞しよう」

使用教材 教科書「改訂版 Tutti」(教育出版)

DVD 映像資料「みちのく津軽の祭り」

(コロムビアミュージックエンターテインメント)

CD 音源資料「縄文の響き」(鳴海昭仁 HOLD ON)

(2) 題材の指導目標

- ・我が国や郷土の伝統音楽の特徴について理解する。
- ・踊り手の跳躍を助長するリズムの躍動感について理解する。

(3) 年間授業計画

年度当初には、歌唱、器楽、創作、鑑賞の分野ごとに中学校での既習事項について把握し、生徒の発達段階に合致した題材を選択するよう留意している。本校では篠笛を全員に購入させているので、奏法の基本の学習と平行して、日本に特有の音階についての理解を深めさせる。3学期には親しみやすい4部合唱を無伴奏で歌わせ、ピアノに頼らず、全体の調和を考えながら歌う経験をさせている。

月	時数	題材名	教材名	ア関心 意欲 態度	イ表現 の創 意工 夫	ウ表現 の技 能	エ鑑賞 能力	指導内容
4	4	歌唱 ・大きく伸びやかな声で歌おう。 ・呼吸を意識して長いフレーズを歌おう。	・校歌	○		○		・曲種に応じた発声の工夫 ・歌詞及び曲想の把握と表現の工夫
	6		・Ave Maria	○		○		
5	4	器楽 ・篠笛を吹いてみよう。 ・わらべうたを吹いてみよう。	・たこたこあがれ	○		○		・楽器の音色や奏法を生かして演奏する。 ・音楽を形づくっている要素の内、日本の音階の働きを感受して演奏する。
	6		・かごめかごめ					
7	3	創作 ・音符の理解と簡単なリズムを理解しよう。	・全音符から16分音符	○				・音楽を形づくっている要素のうち、基礎的なリズムを理解し、音楽をつくる。
	3		・普遍的なリズム					
9	6	歌唱 ・自分なりの表現を考えて歌おう。 ・全体の調和に気を付けて合唱をしよう。	・ファンタジア (映画)	○			○	・歌詞の内容を感じ取り、イメージをもって歌う。 ・合唱の特徴を生かし表現を工夫して歌う。
			・0 sole mio	○	○	○		
10	6	器楽 ・篠笛と和太鼓で合奏しよう。	・COSMOS					・篠笛と和太鼓による表現形態を生かし、表現を工夫して演奏する。
			・くぬぎばやし (創作和太鼓)	○	○			
12	8	創作 ・言葉とリズムの関係を考えよう	・簡単な言葉とリズム	○	○			・反復、変化、対照などの構成を工夫して音楽をつくる。

	4	鑑賞（本時） ・主人公の心情と音楽の変化を味わおう。	・ねぶた(ねぶた) ・うた魂（映画）	○		○	・演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞する。
1	6	歌唱 ・アカペラに挑戦しよう。	・ふるさと	○	○	○	・アカペラの表現形態を生かし、表現を工夫して歌う。 ・音楽を形づくっている要素のうち、声部の働きを感受して歌う。
	6	器楽 ・ギターでアンサンブルをしよう。	・スカボロ・フェア	○	○	○	・ギターアンサンブルの表現形態を生かし、工夫して演奏する。
	2	創作 ・三つのコードでブルースを作曲しよう。	・ブルース進行による8小節の曲	○	○		・音階を選んで旋律をつくり、和音を付けて、イメージをもって音楽をつくる。
	3	鑑賞 ・総合芸術を味わおう。	・サウンド・オブ・ミュージック	○		○	・音楽を形づくっている要素の内、音階や和声を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞する。

(4) 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	我が国や郷土の伝統音楽の種類（ここでは民俗芸能）とそれぞれの特徴に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
学習活動に即した具体的評価規準	ねぶた(ねぶた)独特のリズムが生み出す雰囲気を理解するため、表現と関連付けた活動に積極的に取り組もうとしているか。	音源や映像を注意深く視聴し、躍動感あるリズムの特徴を捉え、踊り手を跳ねさせる必然性があることを理解しようとしているか。

(5) 題材の指導と評価の計画（1時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	創	表	鑑	
第一時	<p>【ねらい】音楽を形づくっている要素の中でも、とくにリズムについて焦点化し、踊り手の跳躍や、祭り全体の雰囲気とどのように結び付いているかを感じ取らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統音楽の特徴について学習する。 グループに分かれ、「ねぶた(ねぶた)」を構成しているリズムや楽器などについて話し合う。 学習したこと、自分や他者の意見を参考に、感想を書く。 	●			●	<p>ア、エ ワークシート2 観察 積極的に楽器の体験に参加するなど、活発な意見交換をしている。</p> <p>エ ワークシート1 観察 「ねぶた(ねぶた)」のリズムがもつ躍動感を学習したことを基に表現している。</p>

※評価の観点については、次の語句、略号を使用する。

音楽への関心・意欲・態度：ア、関心意欲態度、関
音楽表現の創意工夫：イ、表現の創意工夫、創
音楽表現の技能：ウ、表現の技能、表
鑑賞の能力：エ、鑑賞の能力、鑑

(6) 本時（全 1 時間中の 1 時間目）

ア 本時の目標

(7) 我が国や郷土の伝統音楽の特徴について理解する。

(1) 踊り手の跳躍を助長するリズムの躍動感について理解する。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項について確認する。 ワークシート 1 の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 分音符、8 分音符、付点音符などから構成される基本的なリズムなど、これまで学習してきたことについて簡潔に確認する。 ワークシート 1 を配布し、これまで鑑賞する機会の多かった西洋の音楽との違いについて考えさせる。 	
展開 (個別学習)	15	<ul style="list-style-type: none"> 「ねぶた(ねふた)」を音声のみで鑑賞する。 どこの国の音楽か、また使われている楽器などについて考え、ワークシート 1 を途中まで記入する。 数名が意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くきっかけがつかめない生徒には、それまでに学習した楽曲や楽器との対比で考えるよう助言する。 机間指導し、多様な視点の意見を確認し、発表の際に指名する。 	ア ワークシート 1 観察
展開 (グループ学習)	20	<ul style="list-style-type: none"> 演奏を構成するパートごとのグループに分かれる。 グループごとに楽器に触れて音色や動作を体験し、気付いた点をワークシート 2 に記入する。 グループごとに気付いたことを発表する。 全員で「ねぶた(ねふた)」の跳躍を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ分け(太鼓、鉦、笛、かけ声)を発表し、ワークシート 2 を配布する。 生徒の理解を深めるため、可能な範囲で実際に用いられている楽器(笛、バチなど)を用意する。 映像から受けたイメージと「ねぶた(ねふた)」の音楽的な特徴との関連に留意させる。 発表の際、各グループの楽器を短時間演奏させ、他のグループにも楽器の特徴が理解できるようにする。 他者の意見を聞くことで、それぞれの要素が「ねぶた(ねふた)」全体に与える影響について考えさせる。 「ねぶた(ねふた)」がもつリズムの特徴が、多くの踊り手を跳ねさせる躍動感をもっていることを体感させる。 	ア、エ ワークシート 2 観察
まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことや他者の意見を参考に、ワークシートに感想を書く。 リズムが楽曲全体に与える影響や、日本の音楽の特徴について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> シンプルなりズムの繰り返しや、一つの旋律を大勢で演奏することに気付かせるよう助言を行う。 「ねぶた(ねふた)」のリズムが、多くの踊り手を跳ねさせる躍動感をもっていることを自分の言葉でまとめさせる。 	エ ワークシート 2 観察

(7) 本時の振り返り

ア 実際に使用されている楽器を手にとってのグループ活動では活発な話合いが見られた。太鼓については、柳を素材としているため弾力性に富んでいるという、バチの特徴に気付くことができた。既習事項として篠笛の学習の積み重ねがあるので、笛の音色や奏法についても多様な意見が出た。笛の演奏はすぐに体験することは難しいが、生徒の中には、自分の笛を取り出し、演奏に挑戦しようとする積極的な姿勢が見られた。

イ 生徒は日常生活の中で我が国や郷土の伝統音楽に触れる機会が少ないが、意外にも多くの生徒が日本の音楽であると知覚した。それ以外の国と感じた生徒も、中東やモンゴルなどの答えがあり、西洋の音楽とは何らかの違いを感じ取ることができた。その中で、何をもって西洋以外の音楽と感じ取ったかについては、主に楽器の音色や、祭りの雰囲気などを挙げた生徒が多かった（参考資料「ワークシート1」を参照）。

今後は、西洋の音楽と我が国や郷土の伝統音楽がもっている音楽的特徴をより深く対比できるように、歌舞伎や長唄、仏教音楽等についての学習をすることで楽器の音色や西洋との音楽文化の相違を学び取る力をさらに伸ばさせていく。

ウ 太鼓や鉦のリズムと踊りとの関連について気付くことができているが、具体的な根拠をもって表現することは難しかった。リズムを聴き取って音符で表現しようとした生徒もいた（参考資料「ワークシート2」を参照）。基本的なリズムの理解を深めるためにも、音符の種類や読譜力を伸ばしていくために、これらの指導を継続して行っていく。

エ 映像資料を鑑賞したことで、「ねぶた(ねぶた)」の音楽的な面と踊り手の身体表現、巨大な燈籠との関連が理解でき、祭り全体のイメージを捉えることができた。今回は音楽を形づくっている要素の中でもリズムに焦点化した。燈籠のモチーフは中国の古典や日本の神話から取り上げられており、音楽文化についての理解を深める教材としても適している。

オ 民俗芸能については音楽的側面と身体表現や美術などを併せ、総合的に感じ取らせたい。しかし、感想を書く段階では、映像の印象が強すぎて音楽との結び付きが不明瞭になる部分があった（参考資料「ワークシート1（学習のまとめを記入する部分）」を参照）。それぞれを別個に感受した上で相互の関連について思考し、文章として表現する過程に更なる工夫が必要だと感じられた。

参考資料

「ワークシート1」

<p>1 音楽を聴いて考えよう</p> <p>どこの国の音楽だろう？</p> <p>中国とか アジア、(ぼ)い 日本とか</p> <p>なぜ、そう思う？(楽器の音色か、音楽のリズムか、全体の雰囲気か)</p> <p>使ってる楽器の音やふいせがそんな感じだった</p> <p>どんな楽器が使われているだろう？</p> <p>笛、たいこ、鉦、かけ声</p>	<p>西洋の音楽とは違う雰囲気を感じている。</p> <p>楽器の音色から感じ取った雰囲気について、具体的な根拠を挙げるのが難しい。</p>
--	--

1 音楽を聴いて考えよう

どこの国の音楽だろう？

日本

なぜ、そう思う？（楽器の音色か、音楽のリズムか、全体の雰囲気か）

にぎやかで祭のようなリズムだったから。強弱がうっていた。

どんな楽器が使われているだろう？

太鼓, 笛, 鉦, かけ声

リズムを感じ取り、強弱というアクセントに気付くことで、祭りを連想することができている。

「ワークシート2」

♪映像を見て考えよう（注：ここはみんなで考える。積極的に意見を出そう！）

問1 「鉦のリズム」が全体に与える雰囲気について話し合おう

◦ ぶわで下いとか、下いとか、おうミナカんじ。

問2 「鉦のリズム」を書いてみよう（音符でも、カタカナでも、線で

◦ カチャカチャ はねてくるかんじ。

問3 「鉦のリズムと踊り手の動きとの関係」について話し合おう

◦ はねている人のあしがとりたい。
◦ とにたか はげしく。

「はねている人のあしおとみ
たい」
踊りのステップと鉦のリズ
ムに注目している。

♪映像を見て考えよう（注：ここはみんなで考える。積極的に意見を出そう！）

問1 「太鼓のリズム」が全体に与える雰囲気について話し合おう

太鼓があることによって、全体にリズムを与える。→ 場が盛り上がる。
太鼓がないと、全体にまとまりがなくなる。→ 場が盛り上がりづらい。

問2 「太鼓のリズム」を書いてみよう（音符でも、カタカナでも、線でも図でもOK）

タンタタタンの繰り返し。



問3 「太鼓のリズムと踊り手の動きとの関係」について話し合おう

太鼓があることによって、踊り手は踊りやすくなると思う。
踊りやすいリズムである。

「ワークシート1より（学習のまとめを記入する部分）」

<p>3 学習したこと、友達の発表や映像を鑑賞して感じたことを元に感想を書こう</p> <p>ねぶたは、あまり見たことがなかったけど、今日ビデオ(?)を見て、 すごくはくしゃくしゃが面白かったです。 また、太鼓や笛、金鐘にねぶたのかけ声がとても合っていて、いいなと思いま 日本らしいなと思いました。 色んなねぶたがあって面白かった。</p>	<p>音楽的側面とその他を別個に 捉え、その関連を記述するまで には至っていない。</p>
--	---

(8) 本時の成果

感じ取ったイメージについて、なぜ、そのように思うのかを書かせるワークシートを活用し、授業において根拠となるリズムについて実技を取り入れた指導を行ったところ、学習のまとめを記入する部分で「ねぶた(ねぶた)」のリズムを根拠に生徒自らが感じ取ったイメージを表現することができた。

3 実践事例2

科目名	音楽Ⅲ	学年	3学年
-----	-----	----	-----

(1) 題材名 「既習事項の音楽を形づくっている要素を活用して歌い、表現の工夫をしよう」

使用教材 教科書「高校の音楽1」（音楽之友社）

ドヴォルザーク作曲 「交響曲第9番 ホ短調作品 95 『新世界』より」（音楽之友社・ミニスコア）

(2) 題材の指導目標

歌唱を用いて、既習事項である音楽を形づくっている要素を活用し、さらに共通の味わい方や異なった味わい方があることを、音楽を形づくっている要素を根拠として論じ合うことを通して、より創造的な表現ができるようにすることを目標とする。

(3) 年間授業計画

音楽Ⅰ、音楽Ⅱでは歌唱（独唱、合唱）、器楽（キーボード、ボディパーカッション）、創作（文化祭CMソング、テーマソング）、鑑賞を授業計画に盛り込んでいる。音楽Ⅲは、歌唱、鑑賞を中心に、既習事項の活用を重視した計画としている。鑑賞及び創作は歌唱と連携を図っている点、また、2学期以降は、音楽を形づくっている要素の活用を、どの場面でも図っている点が計画する上で配慮したところである。

月	時数	題材名	教材名	ア関心意欲態度	イ表現の創意工夫	ウ表現の技能	エ鑑賞能力	指導内容
4	13	歌唱 ・音楽を形づくっている要素と歌詞の関わりについて考えよう。	Greensleeves AmazinGrace JoyfulJoyful オペラ座の怪人 Summer Time スキャットを歌おう		○	○		・視唱力の伸長 ・曲種に応じた発声の工夫 ・独唱における表現の工夫 ・合唱における表現の工夫 ・歌詞及び曲想の把握と表現の工夫
5	6	鑑賞 ・ミュージカルを鑑賞し、登場人物の心情とメロディの関わりについて考えよう。	オペラ座の怪人			○	○	・音楽の構造上の特徴と美しさの関わり ・諸外国の音楽の特徴 ・楽曲の表現内容の理解 ・様々な表現形態の特徴 ・表現上の効果

6 7 9	2	鑑賞 ・音色の特徴と表現上の関わりを理解しよう。	展覧会の絵			○	○	・音楽の素材としての音そのものの質感を捉え、楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりを理解して鑑賞する。
	5	鑑賞 ・生活及び社会における音楽に関わる人々の役割を理解して鑑賞しよう。	文化祭 ゲストミュージシャンライブ	○	○		○	・音楽は、鑑賞するまでに多くの人々を経由している。多くのこれらの人々の役割を調べ、文化祭でステータススタッフとして働くことで、生活や社会の中で音楽を総合的に捉え、音楽のもつ意味や価値を判断させ、より良い音楽の在り方を考察させ、成果を互いに発表しあう。
	16	歌唱 ・既習曲を再び歌うことで、音楽を形づくっている要素をより深く理解し、表現につなげよう。	希望のうた (校歌) Caro mio ben 春に 大地讃頌 そこにあるうた Joyful Joyful		○	○		・曲種に応じた発声の工夫 ・独唱における表現の工夫 ・合唱における表現の工夫 ・歌詞及び曲想の把握と表現の工夫
10 11	12	3	創作(本時) ・既習事項の音楽を形づくっている諸要素を活用して歌い、表現の工夫をしよう。	交響曲第9番 「新世界」第2楽章を用いて	○	○	○	・音楽を形づくっている要素を生かし、構成を工夫して表現意図を持って個性豊かに音楽をつくる。
1	5	鑑賞 ・オペラを鑑賞して、登場人物の心情とメロディ、構成の関わりについて考えよう。	ラ・ボエーム			○	○	・音楽の構造上の特徴と美しさの関わり ・諸外国の音楽の特徴 ・楽曲の表現内容の理解 ・様々な表現形態の特徴 ・表現上の効果

(4) 評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
単元の 評価規準	曲想や曲の背景の関わりに関心を持ち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、曲想を曲の背景と関わらせて感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図を持っている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、声や楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取り解釈している。
学習活動に 即した具体の 評価規準	曲想や曲の背景の関わりに関心を持ち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組んでいる。	①イメージをもって音楽表現するために必要な音楽記号を記入している。 ②曲想を、自分たちで設定したヴォカリーズや、各種音楽記号、そして与えられた物語による背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって、音楽を形づくっている要素を、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などの背景や演奏者による表現の特徴を理解して楽曲や演奏を解釈し、音楽に対する理解を深め、より創造的に表現している。

(5) 題材の指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	創	表	鑑	
第一時	<p>【ねらい】 音楽を形づくっている諸要素を活用し、さらに共通の味わい方や異なった味わい方があ ることを気付かせる。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにある楽曲の譜読みをする。ヴォカリーズ (Lu) で歌う。 グループに分かれ、配布された楽曲の「物語」を読む。 個人で「物語」のイメージが実現するような、各種音楽表現を考え、譜面に記入する。 グループで楽曲に指定する音楽表現のすり合わせを行い、統一見解をまとめる。 	●		●	●	<p>ア 観察 曲想に関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしているか。</p> <p>イ ワークシート1の添削 「物語」から受けたイメージを、ワークシートの楽曲の背景とし、イメージをもって音楽表現するために必要な音楽記号を記入している。</p>
第二時	<p>【ねらい】 自分たちで設定した音楽表現が、歌唱で表現できるようになる。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで設定した音楽表現に基づいて、歌唱の練習をする。 録音をする。 			●		<p>ウ 観察 曲想を、自分たちで設定したヴォカリーズや、各種音楽記号、そして与えられた物語による背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって、音楽を形づくっている要素を、創造的に表している。</p>
第三時 (本時)	<p>【ねらい】 音楽を形づくっている要素を根拠として論じ合うことを通して、より創造的に表現する。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 他グループの録音を聞きながら、そのグループがイメージしたものは何なのかを推察し、グループで話し合う。 自分たちはどのような想いで歌ったのかを発表する。 		●	●		<p>ウ ワークシート 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、楽曲の背景や演奏者による表現の特徴を理解して楽曲や演奏を解釈し、音楽に対する理解を深め、より創造的に表現している。</p>

※評価の観点については、次の語句、略号を使用する。

音楽への関心・意欲・態度：ア、関心意欲態度、関
音楽表現の創意工夫：イ、表現の創意工夫、創
音楽表現の技能：ウ、表現の技能、表
鑑賞の能力：エ、鑑賞の能力、鑑

(6) 本時（全3時間中の3時間目）

ア 本時の目標

音楽を形づくっている要素が、どのように選定されたか考え、根拠をもって論じ合うことを通して、音楽に対する理解を深め、より創造的に表現する。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 方法 (ア～ウ)
導入	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を把握する。 ・本時の活動内容についての説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書で目標を明示する。 ・音楽を形づくっている要素とは何か、例を挙げて確認する。 	
展開	40分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に録音したグループごとの演奏を聞く。 ・各グループで、その背景を推察する。 ・発表グループが、自分たちの表現意図を発表する。 ・グループ内の意見と発表者の表現意図をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表グループの譜面を、表現意図が分かるように拡大投影する。 ・各グループで、表現意図は何かを論じ合う。その際の根拠としては音楽を形づくっている要素を用いる。また、グループの様子を細かく観察し、適宜グループ内の良いコメントを教員が全体に発信することで、根拠に重みを増す工夫をする。 ・発表グループが自分たちの表現意図を理由と共に発表する。その際、音楽を形づくっている要素への触れ方が弱い場合は適宜質問をして意図の確認をする。また、共感を得ている部分に関しては、なぜうまく伝わったのか考えさせる。 ・グループ内の意見と発表者の表現意図は並べて記入し、それらを比べる。 	イ、ウ 観察 演奏 ワークシート
まとめ	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とはどのようなことかを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素が思いや意図と結び付いていることを再確認させる。 	ウ 観察 ワークシート

(7) 本時の振り返り

ア 観察をこまめに行い、グループでの話し合いから良い発言をピックアップした。第1時では、音楽を形づくっている要素や各種音楽表現とは何か戸惑う生徒がいた。しかし音楽を形づくっている要素に触れた記述をしている生徒の発表を聞くことで、どのような知識を活用すればよいのかをつかみ、その後の討論が盛んになった。本時ではその経験が生かされ、グループ討論は盛んであった。

イ 前時の録音時の教師からのコメントとワークシートへの評価で、音楽を形づくっている要素の理解が深まり、録音時の歌唱や表現意図の発表の際に活用することができた（参考資料「ワークシート1」参照）。

ウ 授業後の感想に、「各種音楽表現について、あまり知らなかった。音楽表現一つでここまで変化がつくんだなと思った。」という記述があった。最初はイメージのみに基づいた記述であったが、他者の発表や自分たちの説明、教員による助言等で、音楽を形づくっている要素を根拠とした記述に変化した（参考資料「ワークシート2」参照）。

生徒に提示した物語

授業者が、楽曲のA—B—A'形式に対応した物語を作成した。そして、生徒に対して、「幸せ」をイメージする物語を3種類、「幸せではない」をイメージする物語を3種類、合計6種類の物語を提示した。生徒は、提示された物語をランダムに選択し、与えられた楽曲にヴォカリーズや音楽記号を書き込み、音楽表現の仕方を工夫する取組を行った。以下に例を挙げる。

参考資料 授業者が作った物語

☆「幸せ・友達」

A 今日は誕生日だ。朝、家族からお祝いを言われてから登校して、とても気分が良い。

B 友達たちは、今日自分が誕生日ということを知っているはずだが、だれも何も言っていない。でもなにか様子変だ。

A' 放課後教室へ行くと、友達たちによるサプライズパーティーが始まった。

参考資料「ワークシート1」 生徒が書き込んだワークシート

グループワークシート（音楽表現の理由つき）
グループメンバー名（ ）

グループワークシート（音楽表現の理由つき）
グループメンバー名（ ）

1. $\downarrow = 168 \rightarrow$ 心がはるばるはるばる、幸せ気分を表現。
 牧歌的、テンポやリズム感がある、他の表現が良い。
 Con spirito (staccato) good staccato
 mf staccato

5. C F G C

9. $\downarrow = 80 \rightarrow$ 心の中が少し現れている雰囲気表現。
 Tranquillo Legato → スローでも良いかも。
 p good molto rit

13. F

17. $\downarrow = 144 \rightarrow$ サプライズに対し、驚きと幸せ気分入り表したリズムを表現。
 Brillante good!
 f clap hand

21. C Am F G C
 good!

25. F C
 音楽的流れに合わせて、心の中の高揚を表現。
 曲の終わりに、拍手の音を入れて、パーティーの終わりを惜しむように表現。
 ハンドクラップが効果的だ！

表現上の工夫に関して音楽を形づくっている要素を踏まえた助言を行い、演奏や自身の解説に生かせるようにした。

生徒が記入した記号の根拠についての説明を促すことで、表現力の向上を目指す。

助言を加えることで、根拠に力を与え、表現力の向上を目指す。

参考資料「ワークシート2」

発表者4番 予想物語： 友達		作成者のイメージしたものは...	
自分の意見、		どうしてそう思ったか、	
すごく明るい学校生活、 仲良しの女子が最後に団結して盛り上がるイメージ。		拍手が入ったり、歌い方が爛々としているから。	
他人の意見（同じグループ、他のグループ）		どうしてそう思ったか、	
仲のよい友達が休んだ。 次の日は来た！		ディクレッシェンドやピアノから、今日はないのだと思ったから。	
発表者の想い、		どうしてそう思ったか、	
誕生日のサプライズを考えてあえて知らないふりをして、最後にサプライズパーティーをする。		「おめでとう」をクレッシェンドで表す。 拍手は祝福を表している。	
【全体発表時記入欄】 表現する物語は：不幸系の恋。			
他人の意見、		他人はどうしてそう思ったか、	
強くなるのが両想いだと思ったのに振られてしまった。		途中でクレッシェンドして大きくなるから。 でも、最後ふられてしまって悲しい感じになったから。	
自分たちの意見との相違点、			
強くなる場所は告白のシーンだったが、ふられたシーンだと思われていた。			
発表してみた感想～各種音楽表現を使って・受け取ってみて、			
最後の悲しみをディクレッシェンドで表すなど、物語にあわせて楽譜を作るのが楽しかったです。ただ、伴奏はいじらなかったので、和音で伸ばしてみたり、暗い感じを出してみても楽しかったのかなと思いました。			

音楽を形づくっている要素を根拠とした記述ではなく、イメージのみに基づいた記述が見られる。

この欄は、まとめの後に書かせた。

他人の発表や自分たちの説明、そして教員による助言等で、音楽を形づくっている要素を根拠とした記述に変化した。

(8) 本時の成果

最初は、音楽を形づくっている要素や各種音楽表現について戸惑う生徒がいたが、授業者が「ワークシート1」に記入した生徒のコメントの内容を書き込んでいくことで、物語を踏まえた表現の意図を考え、自分の言葉で発することができるようになった。さらに、他者の意見や、教員の助言を基に、音楽を形づくっている要素を理解させることができた。

また、授業者が提示した物語と関連付けさせる学習活動を行うことで音楽を形づくっている要素と言葉で表現した内容をスムーズに関連付けることができた。その上、生徒の発表や他者の意見を聞くことで、音楽を形づくっている要素について理解を深め、音楽表現にまで活用できるようになった。

4 実践事例3

科目名	音楽Ⅰ	学年	1学年
-----	-----	----	-----

- (1) 題材名 「鑑賞を通して音楽を形づくっている要素と内容の関連を理解し、表現を工夫して歌おう」

使用教材 教科書「高校音楽Ⅱ 改訂版 MUSIC ATLAS」(教育出版)

E. デ・クルティス作詞・作曲「Torna a Surriento (帰れソレントへ)」

CD音源資料「MUSIC ATLAS 平成20年度版 高校音楽Ⅱ 教授資料」

演奏 ルチアーノ・パヴァロッティ (テノール)

ジャン・カルロ・キアラメッロ (指揮)

ナショナル・フィルハーモニー管弦楽団

(2) 題材の指導目標

調性の変化から歌詞の内容を考え、強弱やテンポの変化を意識するなど、感受した内容について音楽を形づくっている要素を用いて説明する活動を通して楽曲のよさや美しさを味わう。

(3) 年間授業計画

音楽Ⅰでは歌唱(独唱、合唱)、器楽(リコーダー、ギター、ハンドベル)、鑑賞を授業計画に盛り込んでいる。歌唱、器楽については基本的な演奏技術の習得を中心に、音楽を形づくっている要素についての理解を深めていく。鑑賞は歌唱との連携を図り、音楽を形づくっている要素の知覚・感受から表現の工夫へとつなげていく。

月	時数	題材名	教材名	ア 関 心 意 欲 態 度	イ 表 現 の 創 意 工 夫	ウ 表 現 の 技 能	エ 鑑 賞 能 力	指導内容
4 5 6 7	12	歌唱 ・曲に応じた発声と技術を身に付けよう。	・校歌(斉唱) ・Santa Lucia ・Caro mio ben ・瞳を閉じて	○	○	○		・視唱力の伸長 ・曲種に応じた発声の工夫 ・独唱における表現の工夫
	12	器楽 ・音楽表現に気を付けてリコーダーを演奏しよう。	・カガアリア・スルティカーナより「間奏曲」 ・Ave Maria	○	○	○		・演奏技術の伸長 ・独奏における表現の工夫
	4	鑑賞 ・吹奏楽の世界を知ろう。	・ドラムライン ・アルメリアン・ダンス・パート1	○			○	・吹奏楽の歴史、編成 ・吹奏楽の様々な音楽について
9 10 11 12	13	歌唱(本時) ・音楽を形づくっている要素と歌詞の関わりについて考え、その働きを感じながら歌おう。	・少年時代 ・Torna a Surriento ・野ばら	○	○		○	・視唱力の伸長 ・曲種に応じた発声の工夫 ・独唱における表現の工夫 ・歌詞による表現の工夫

1 2 3	13	器楽 ・コードを覚えてギターの弾き語りをしよう。	・Country Road	○	○	○	・演奏技術の伸長 ・独奏における表現の工夫
	4	鑑賞 ・物語と音楽の関わりを考えよう。	・Sound of Music ・フィガロの結婚	○	○		・物語の内容と曲の関わりについて ・旋律の変奏について
	10	歌唱 ・合唱を通して、声や表現を合わせる技術を身につけよう。	・校歌（合唱） ・春に	○	○	○	・合唱における表現の工夫 ・歌詞、曲想による表現の工夫
	10	器楽 ・合奏を楽しもう。	・空も飛べるはず	○	○	○	・アンサンブル能力の伸長 ・合奏における表現の工夫
	4	創作 ・言葉のアンサンブルを作ろう	・野菜の気持ち	○	○	○	・言葉のリズムと発音の面白さを生かした創作

(4) 評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	エ鑑賞の能力
単元の評価規準	音楽を形づくっている要素と歌詞の内容との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に歌ったり鑑賞したりしようとしている。	音楽を形づくっている要素とそれらが生み出す特質や雰囲気などを感受し、歌詞の内容との関連を考えて表現を工夫している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら歌詞の内容との関わりを考え、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わって聴いている。
学習活動に即した具体的評価規準	「帰れソレントへ」の曲想と歌詞が表す情景や心情、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心を持ち、歌ったり鑑賞したりする学習に意欲的、主体的に取り組もうとしている。	「帰れソレントへ」の調性や強弱、声質の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などと歌詞の内容との関連を考えながら主体的に表現しようとしている。	「帰れソレントへ」の調性や強弱、声質の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、歌詞の内容との関わりを考え、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わって聴いている。

(5) 題材の指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点				評価規準 (評価方法など)
		関	創	表	鑑	
第一時	<p>【ねらい】 調性の変化から歌詞の内容を推測させることで、音楽を形づくっている要素と歌詞の内容との関連に気付かせる。</p> <p>・「Torna a Surriento」を鑑賞し、曲の内容について考える。</p>	●				<p>ア 観察</p> <p>曲に関心を持ち、内容について推測する学習に主体的に取り組もうとしているか。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を読んで音取りをする。 ・調性の変化を知覚しながら鑑賞しワークシート1の譜面を色分けする。 ・調性の変化から歌詞の内容を推測しワークシート1に書き込む。 	●				イ、エ ワークシート1の添削 調性の変化を知覚し、それを根拠に歌詞の内容を推測しているか。
第二時(本時)	【ねらい】音楽表現の工夫に注意しながら鑑賞させることで、歌詞の内容と音楽表現とのつながりに気付かせる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の日本語訳と自分達で推測した内容を比較し、調性の変化と内容とのつながりを確認する。 ・音楽表現の工夫に注意しながら鑑賞し、歌詞の内容とのつながりを考え、気付いたことをワークシート2に記入する。 ・他の生徒の意見を聞き、ワークシート2に記入する。 ・学習内容を振り返り、気付いたことや感想をワークシート2に記入する。 	●	●			イ、エ ワークシート2の添削 音楽表現の工夫を感じ取り、その理由や効果を歌詞の内容を根拠にして説明できているか。 ア ワークシート2の添削 音楽を形づくっている要素と歌詞の内容との関わりを意識して、主体的に学習に取り組んでいるか。
第三時	【ねらい】音楽表現を工夫することで、歌詞の内容を効果的に表現できることに気付かせる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2を見ながら、音楽表現の工夫を確認する。 ・この曲に合った発声を学ぶ。 ・音楽表現の工夫に注意しながら歌う。 	●				イ 観察 歌詞の内容と表現の工夫との関わりを意識して、曲想を生かした表現の工夫ができているか。

※評価の観点については、次の語句、略号を使用する。

音楽への関心・意欲・態度：ア、関心意欲態度、関
音楽表現の創意工夫：イ、表現の創意工夫、創
音楽表現の技能：ウ、表現の技能、表
鑑賞の能力：エ、鑑賞の能力、鑑

(6) 本時（全3時間中の2時間目）

ア 本時の目標

(7) 鑑賞を通して演奏表現の工夫を知覚・感受し、歌詞の内容との関わりを理解する。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)	
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を確認する。 歌詞を読んで音取りをする。 本時の目標を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を確認、活用できるように、前時の内容を掲示する。 ワークシート1を返却する。記述内容を幾つか紹介し、全体に対して、調性の変化と詞の内容を関わらせて推測できたことを評価する。また、異なる意見があれば紹介し、多様な考え方があることを説明する。 		
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> 日本語訳を確認し、調性と歌詞の内容の関わりについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1の評価を基に、さらに理解が深まるよう訳詞と比較させる。 		
		<p>【発問】プロの演奏家はこの歌詞の内容をどうやって歌で表現しているだろうか？強弱やテンポの変化、歌い方や声の出し方の違いに気を付けて聴いてみよう。</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容と表現の工夫の関わりについて考えながら鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏家の視点で鑑賞することを指導する。 音楽を形づくっている要素を活用できるように強弱やテンポの変化、アーティキュレーションなど、黒板に掲示する。 楽譜に記載されていない表現もされていることを伝える。 	エ 観察	
		<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容と音楽表現の工夫の関わりを考えてワークシート2に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現の理由が歌詞の内容にあることを確認させ、それを根拠にして記述できるよう机間指導する。 	ア、イ 観察 ワークシート2	
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を振り返りながら鑑賞する。 気が付いたことや、感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1番と2番で、同じ歌詞で表現が違う部分に着目させる。本時の授業で学習したことを基に、その理由に気付くよう指導する。 ワークシート1と2を回収する。 本時のまとめと次時の予告をする。 	エ 観察 ワークシート1、2	

(7) 本時の振り返り

- ア 鑑賞する際、どこに注目して聴けばよいのか、事前に明確に指示したので、生徒は集中して聴くことができた。生徒の気付きを促すために発問を多くしたことで、生徒の発言を待つ授業展開となった。そのため少し時間がかかってしまったが、生徒の主体性を引き出すことができた。生徒は、強弱やテンポの変化、歌い方と歌詞の内容を関わらせて考える作業にも積極的に取り組み、それぞれが自分なりの根拠をもって音楽表現の工夫を説明しようとしていた（参考資料「ワークシート2」の表右面を参照）。
- イ 前時に調性の変化から内容を推測する作業をしていたため、音楽を形づくっている要素と歌詞の内容との間に大きな関わりがあることを学んできている。生徒が推測した内容から「不安」や「嬉しい」など感情を表す表現を取り上げ、調性の変化と関連して考えられていることを評価した。またその際、同じ長調でも違う内容を推測している場合には、どうして違うように感じたのかという発問をすることで、調性以外の音楽を形づくっている要素へも関心が向かうよう指導した（参考資料「ワークシート1」の左面を参照）。本時ではその既習事項を活用し、強弱やテンポの変化、歌い方と歌詞の内容との関わりについてもしっかりと考察させることができた。特に、楽譜には書かれていないテンポの変化を「楽しかった時間はあっという間に過ぎ去ってしまうから速く歌っている」と表現した生徒がおり、音楽表現と歌詞の内容について考察する力が付きつつあることが見て取れた（参考資料「ワークシート2」の裏面を参照）。
- ウ 本時の目標は鑑賞を通して知覚・感受した内容を、歌詞の内容との関わりを根拠に思考するものである。前時の内容と本時の内容を比較し、音楽を形づくっている要素に着目して鑑賞し、それを根拠にワークシートを記述できていることを評価した。次時には実際の歌唱で、本時に学習した音楽表現の工夫をすることになる。この一連の学習によって音楽を形づくっている要素に対する興味・関心を高め、知覚・感受から表現に至る一連の活動を習慣付けていくようにしたい。

参考資料

ワークシート1（左面）

2. 曲を聴いて、長調の部分をオレンジで、短調の部分を青で色分けしよう。
 (→右ページの楽譜)

3. 長調、短調の違いをもとに、詞の内容を考えてみよう。うたの結びについて、主人公の気持ちで、恋人への想いを言葉で書いてみよう。

	調性	詞の内容	主人公の気持ちで、恋人への想いを言葉で書いてみよう。
起	短	風景の描写	「彼女が、さっさと帰って来た。嫌われたかな？」
承	長		不安がっていると、彼女に気がきかせたくて書いた。(嬉)女子校子モーロ
転	長/短		自分の中で、彼女をどう思っている!! (嬉) けど、彼女が、仲良しな男友達と考へていた。
結1	長		うあきしい。シッパでね! 転調が効果的だよ。
結2	短	願い	「僕のもとに帰ってきておくれ!」

→嬉しい長調と、シッパを受けた長調は、どんなふうに歌いわけられていたかな?

長調・短調の変化に着目させ、物語を考えながら鑑賞することで、調性の変化と物語の関連に視点を向けさせることができた。さらに、朱書きで助言を示すことによって、推測した内容に自信をもたせ、次時の授業内容に対して意識を高めさせることができた。

発問によって調性以外の音楽を形づくっている要素へも関心が向かうよう意識付けをした。

ワークシート1 (右面)

Torna a Surriento
帰れソレントへ 作曲: E. デ・クルティス

長調・短調の部分聞き分けて色を塗ることで調性の変化への関心を高める。また視覚効果により調性の変化が明確に分かるため、歌詞の内容を推測するときのヒントとなる。
調性の変化に集中して作業ができるよう、歌詞や音楽記号、用語は意図的に省いてある。

ワークシート2 (表左面)

「帰れソレントへ」ワークシート2

1. 歌詞の訳を読んで、自分の考えた内容と比べてみよう。

起 (短調)	Vide 'o mare quant' è bello, ごらん、なんて美しい海だろう。 Spira tantu sentimento, 豊かな情感に溢れている Comme tu a chi tiene mente, 君の優しい囁きのように Ca scotalo 'o faje sunna. 私を夢心地に誘う	
承 (長調)	Guarda qua', chistu ciardino; ごらん、この庭を Siente sie', sti scure arance; オレンジの花の香りをかいでごらん Nu profumo accussì fino 繊細な香りが Dinto 'o core se ne va... 心に沁み入ってくるようだ	
転 (長→短)	E tu dice: "I' parto, addio!" それなのにあなたは「さよなら」と言う T'alluntane da stu core... 私の心から遠く離れて Da sta terra de l'ammore... そして愛の思い出の地からも Tiene 'o core 'e nun turnà? 本当に帰ってこないのか?	
結1 (長調)	Ma nun me lassà, 行かないでくれ Nun darne stu turniento! そんなに苦しめないでくれ!	
結2 (短調)	Torna a Surriento, 帰れソレントへ Famme campà! 私を助けてくれ!	

2. 詞の内容や調性の変化に合わせた表現の工夫を感じ取って、その効果や理由を考えてみよう。

※表現の工夫
強弱の変化、歌い方や声音、フェルマータ (音を伸ばす)、テンポの変化など
例: 「語りかけるように優しい声で歌っている」 etc.

(鑑賞をしながら、裏の楽譜に気付いたことを記入していこう。)

前時のワークシート1で生徒が推測した内容と比べられるよう、調性の変化に合わせて訳詞を掲載している。

音楽を形づくっている要素と、それを用いた記述の例を示し、作業のヒントを与える。

ここで「楽譜に書いていない表現もあるかもしれないよ」と助言し、生徒の気づきを促した。

(裏面)

・2つあり、1つは強弱の記号

Torna a Surriento

痛れソレントへ 作曲：E. デ・クルティス

Andantino

Vide 'o ma-re quan-te bel-lo, Spi-ra tan-tu sen-ti-men-to,

自分の意見	思い出を思い出して、心をささげている。
皆の意見	主人公の悲しい気持ちが入められている

stent のほほがら *rall* 遅くゆくり *con passione* 情熱

Con-que tua chi-tie-ne men-te, Ca-roc-ta-to' faje sun- - - na

自分の意見	数えきれない程の楽しい思い出を思い出して、心に
皆の意見	彼女との思い出を思い出しているからゆくり。

Guar-da, gua', chi-stu ciar-di-no, Sien-te, sie', Sti sciu-rea-ran-oc,

自分の意見	楽しい景色を思い、ゆるやかに表現。
皆の意見	楽しかった時間が過ぎるので速くうたっている。

Nu-pu-fu-moa-co-sui fi-no, Dia-to' co-re-se-nc-va

自分の意見	たのしく、表情豊かに
皆の意見	良い香りが心地よく感じられる。

（転写） わがわが、やさしく、声の質を養える。

強弱の変化と歌詞の内容との関連など、知覚・感受した内容について音楽を形づくっている要素を用いて説明しようとしている。

自分の意見	悲しいから
皆の意見	悲しいから 思いが強まっているから

stent *con passione* *stent* *con passione* *stent* *con passione*

Da- ta-ter- de fan-mo-re, Tie-ne' co-re- nun-tur- - - na?

自分の意見	今と昔を比べて悲しく表現している。
皆の意見	この土地にいてほしいから。

Ma nun-me las- - - sa, Nun dar-me stu-tur- - - mien-to!

自分の意見	今までの思い出が忘れず相手に届くように大きく表現
皆の意見	//

Tor- - - nas Sur- - - rien- - - to, Fan-me cam-pal

思い出を音に込め、盛大に!!!
悲しい感じがしてしまっている。

楽譜に書かれていない表現の工夫を聴き取っている。また、他の生徒との意見の違いから、感じる内容が人によって違うことにも気付くことができた。

(表右面)

3. これまで勉強してきたことを振り返って、気付いたこと、感想をまとめよう。

・気付いたこと

この曲は情熱的に大きく表現したり、
淋しそうに小さくゆくり表現したりするところがありました。
それは、この曲の主人公の気持ちを細かく表現し、
聞いている人に分かりやすくもしているんだと思います。
楽しかった思い出を、歌っているときは、
時間が過ぎるのが速いように速度も速くなって
いました。又、声の質も柔らかくやさしく歌っている
ことがわかりました。それに比べ、悲しい今を歌っている
ときは、声の表情もささしく、切なく表現していました。
最後から二段目は、今までの思い出が忘れず
相手に届くように表現していることがわかりました。

・感想

歌詞を自分で考えて書く授業では、その音楽から
伝わるイメージを深く考えられました。
2回目の授業では、歌詞を知ってその歌詞の
気持ちをイメージしてその主人公になって歌うことが
出来ました。帰れソレントという曲は、今までに
何回も聞いたことがありましたが、深く学んで
今まで以上に好きになりました。

___年 ___組 ___番 氏名 ___

第1時で初めて曲を聴いた時の感想は「悲しそう」「声大きい」などの単純なものであった。これはワークシート1の、歌詞の内容を推測する作業にも現れている。転調だけでは説明できない内容の変化を感じ取っているが、根拠をもって説明するには至っていない。

2時間の授業の結果、音楽表現の工夫と歌詞の内容との関連に気付き、知覚・感受した内容について音楽を形づくっている要素を用いて説明しようとする姿勢が見られるようになった。

(8) 本時の成果

ワークシートを用いて、曲想の変化と調性の変化を関連付けて捉えることができた。さらに、歌詞が表す情景や心情と曲想が生み出している音楽的な特徴を関連付けて考えることで、歌唱表現につなげることができた。

また、ワークシート1の生徒の記入に対して、教員から調性などの音楽を形づくっている要素についての助言を与えることで、理解が深まり、ワークシート2では自らの感じ取った雰囲気の説明する際に根拠として音楽を形づくっている要素を活用することができた。

VI 研究の成果

本研究では、音楽表現や鑑賞活動を通して思考力・判断力・表現力を育成するためにどのように評価方法を改善していくかについて考察することを研究主題とし、具体的な指導方法を開発するとともに、検証授業を行った。開発に当たっては、題材設定、教材研究、指導方法を工夫し、幅広くどのような学校でも応用して実践できるようにした。成果の具体例として以下のものがある。

1 器楽と鑑賞を関連させた授業の実施

日本の伝統音楽の授業においては、実際に使用されている楽器を手にとることにより、楽器の特徴と音楽を形づくっている要素を関連付けて考えることができた。さらに、表現領域において篠笛の体験を行っていることから、笛の音色や奏法について既習事項を活用した活発な話し合いが見られた。また、自分の笛を取り出し、演奏に挑戦しようとする積極的な姿勢が見られ、既習事項を活用する喜びを味わわせることができた。

2 ワークシートを基にした意見交換

生徒に話し合いをさせ、音楽を形づくっている要素について触れている生徒の意見を発表させることや、教員の助言を参考にすることで、どのような知識を活用すればよいかをつかませる事ができた。これによりワークシートの記述がイメージに基づいたものから音楽を形づくっている要素を根拠にしたものへと変化し、楽曲への理解をより深めることができた。

3 既習事項の効果的な活用方法を示した

鑑賞する際に、音楽を形づくっている要素と詞の内容に大きな関わりがあるという既習事項を活用させ、ポイントを明確にして鑑賞させるようにし、生徒の気付きを待った。その結果、感じ取った音楽のよさや美しさについて、音楽を形づくっている要素を用いて考察し、説明しようとする姿勢を身に付けさせることができた。

4 反復による確かな学力の定着

1単位時間内、単元内、単元間など、繰り返し評価することに加え、段階を追って学習する工夫で、思考力・判断力・表現力を定着させることができた。

5 効果的な声かけと評価の実施

評価を行う際は、生徒が知覚・感受して推測した内容に根拠をもつことができるよう、音楽を形づくっている要素を意識させる助言を行った。これにより、与えられた音楽に対する自分なりの気付きを多くもてるように変化し、音楽を形づくっている要素を根拠に、言葉や音楽を用いて、主体的に表現できるようになった。

VII 今後の課題

1 音楽を形づくっている要素の理解の蓄積が必要

鑑賞を通して知覚・感受した内容を根拠に思考し、次にワークシートへの書き込みや実際の歌唱等において、既習事項の内容を基にして音楽表現としての活用につなげていくなど、一連の学習として音楽を形づくっている要素に対する興味・関心を高め、知覚・感受から表現に至る一連の活動を習慣付ける必要がある。思考力・判断力・表現力を伸長させるためには、音楽に関する既習事項を活用することが必要である。今回の研究は鑑賞を中心に行ったが、それ以外の分野でも、ねらいを明確にした授業を行うことで、音楽を形づくっている要素を知覚・感受させ、またそれをあらゆる場面で活用して理解することを繰り返しながら、蓄積させることが必要である。

2 ワークシートの更なる開発

知覚・感受した音楽を形づくっている要素が、どのように音楽のよさや美しさに結び付いているのかを考えさせるとともに、思考したことを文章として表現しやすく、生徒教員双方にとって分かりやすいワークシートを研究・開発してきた。今回の研究は一例であり、今後更なる開発が必要である。

3 年間授業計画の重要性

年間を見通して、あるいは3年間を見通して、どのような思考力・判断力・表現力を身に付けさせ、活用させるのかを検討した上で、音楽を形づくっている要素の蓄積を図る必要がある。そのためには詳細な年間授業計画の作成が必要である。

4 小中学校の学習内容との連続性

音楽を形づくっている要素は、高校段階においては小・中学校からの既習事項の積み重ねの上に成り立つものであり、連続性を考慮する必要がある。小・中学校の音楽教員と相互に研究授業などを行い、生徒理解や指導方法についての情報交換を重ねていく必要がある。

平成24年度 教育研究員名簿

高等学校・芸術(音楽)

学 校 名	課 程	職 名	氏 名
都立東村山高等学校	全日制	主任教諭	○浅田 裕
都立東大和高等学校	全日制	主任教諭	神田 宇士
都立葛飾総合高等学校	全日制	主任教諭	山田 泰之

○ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 統括指導主事 佐藤 聖一
東京都教職員研修センター研修部授業力向上課 指 導 主 事 片桐あかね

平成24年度
教育研究員研究報告書

高等学校・芸術（音楽）

東京都教育委員会印刷物登録

（平成24年度第243号）

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6882
印刷会社 株式会社 イマイシ